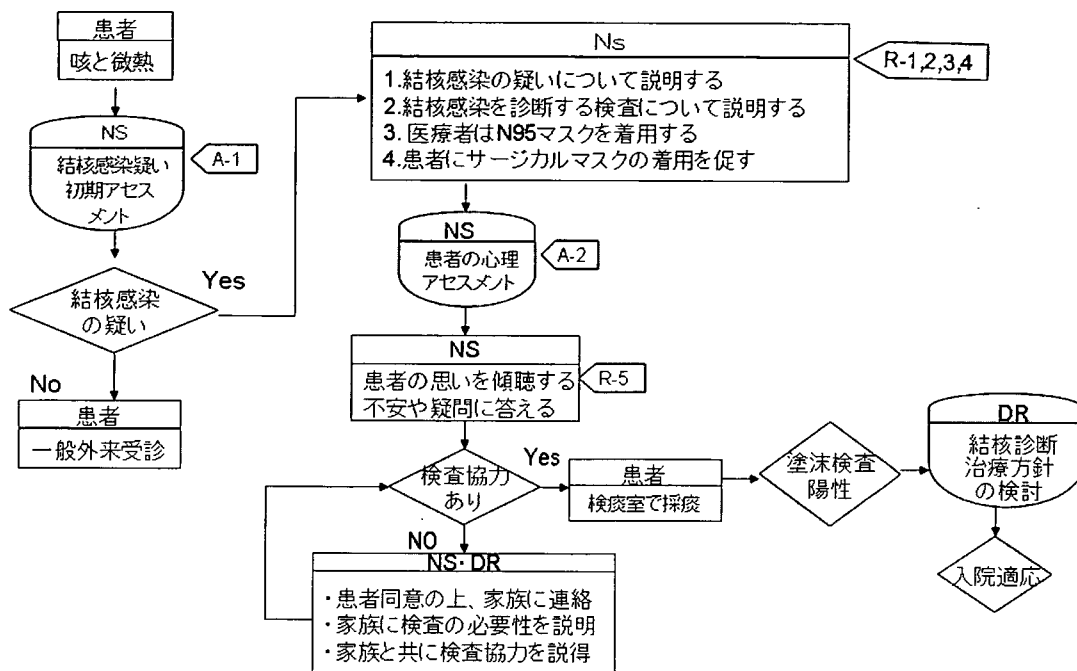


# ①外来受診時における結核感染防止ケア



## A-1 結核感染疑いの初期アセスメント

- ・2週間以上持続する咳嗽
- ・発熱の有無
- ・排痰の有無
- ・倦怠感・食欲不振・体重減少
- ・結核の既往歴の有無
- ・空気感染であることの知識

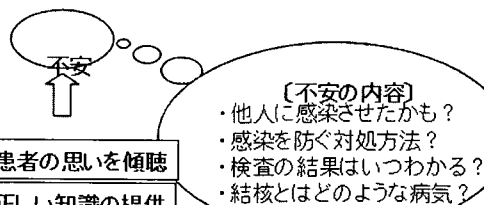
## A-2 患者心理アセスメント

- ・他人に感染させる(させた)かも知れないという不安
- ・隔離されるのか、感染を防ぐ対処方法が分からないことへの不安
- ・結核感染疑いをはっきりさせるための検査方法および結果が出るまでの時間に対する不安
- ・結核という疾患と治療への不安
- ・結核感染ではないかも知れないという期待

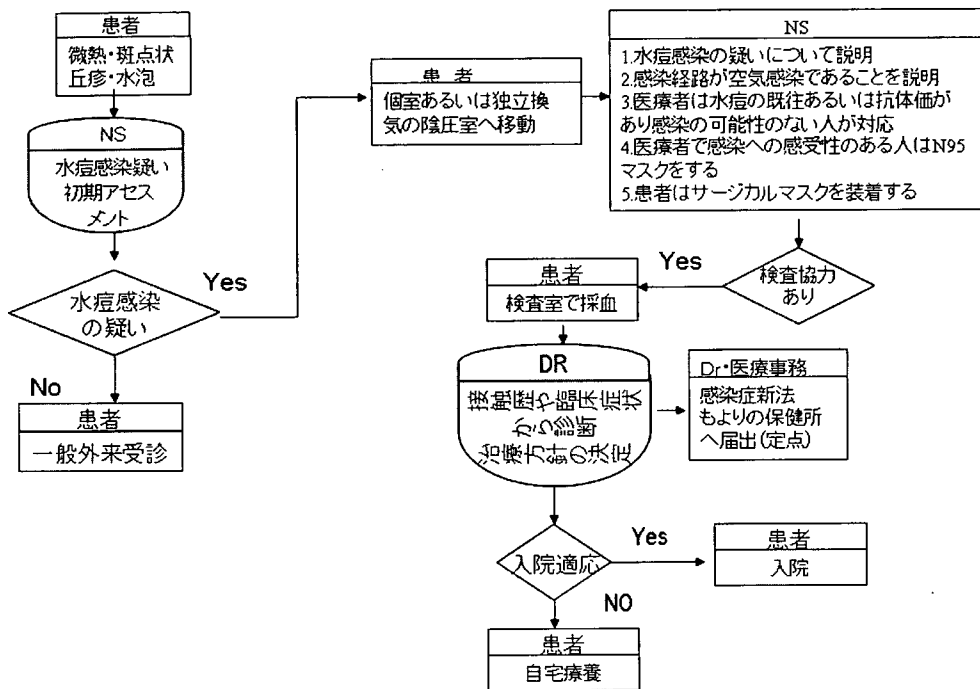
## R-1 結核とは

結核菌は結核患者がくしゃみや咳をした時に飛散するしぶきに含まれ、空中でしぶきの水分が蒸発し、結核菌が裸の状態では浮遊、これを吸入する事によって起こる空気感染である。  
CDCガイドライン

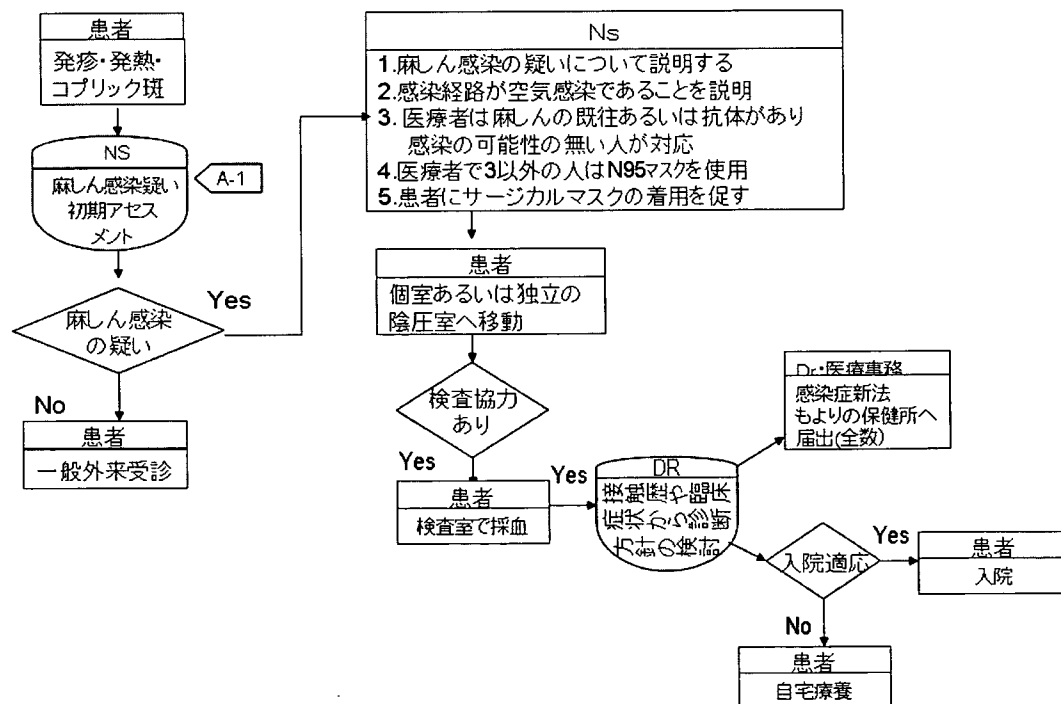
## R-5 結核感染疑いと告知を受けた患者のケア



## ② 外来受診時における水痘感染防止ケア



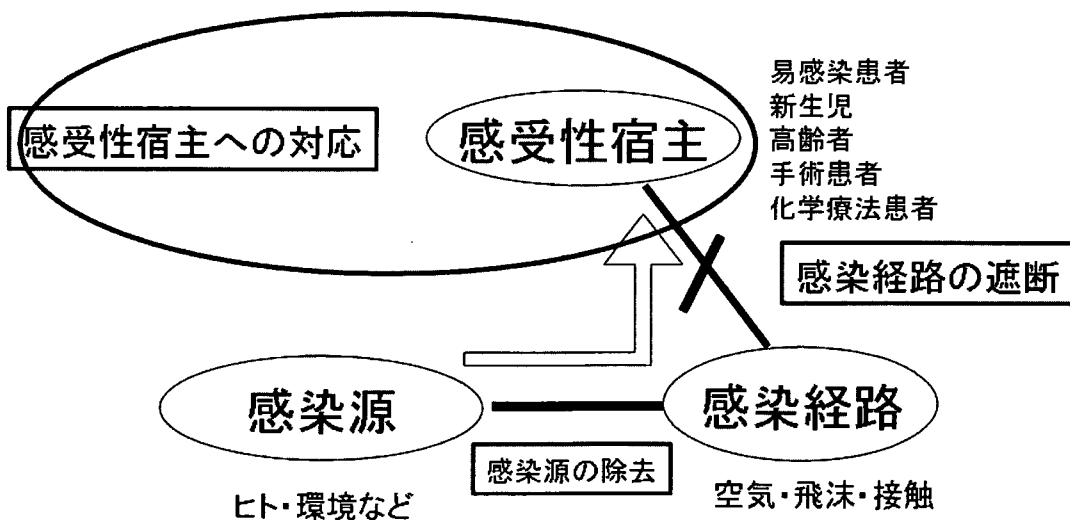
## ③ 外来受診時における麻疹感染防止ケア



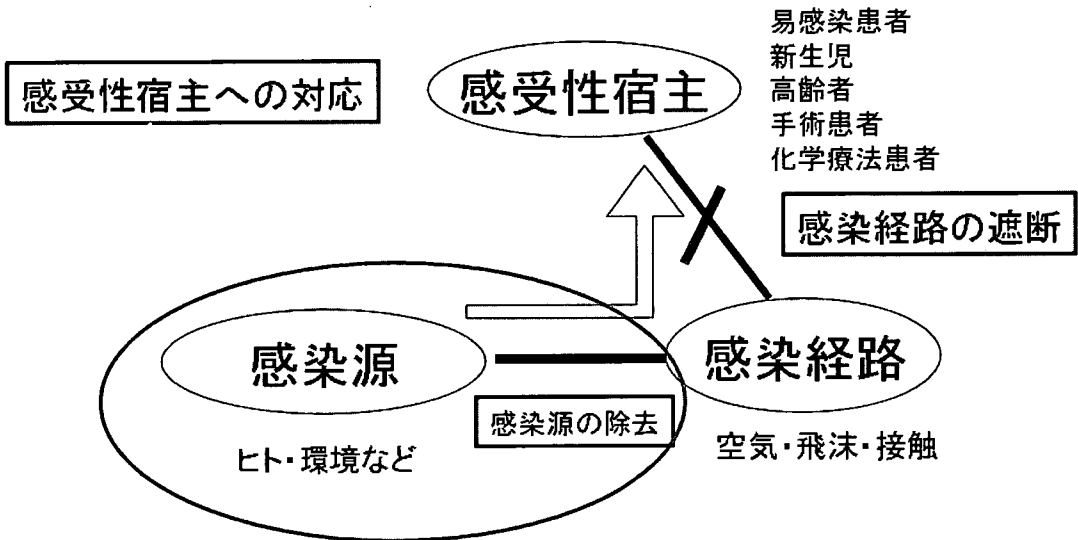
## 考察

- ✓ 当アルゴリズムは空気感染防止を目的に作成した
- ✓ ケアの全体像を可視化することで、院内感染防止・職業感染防止・市中感染防止が成立すると考える
- ✓ 外来における感染防止行動には、優れた観察能力が必要である。このアルゴリズムが経験の無いものでも行動に移せ、看護の質が保証できうるかを、外来で検証する必要がある
- ✓ 感染看護を実践するには入院後の患者の精神的、社会的側面への対応について取り組んでいく必要がある。

## 感染の連鎖



# 感染の連鎖



### 5-3-4. 術後感染症の予防的ケア

脇坂 浩（北里大学）

菊一 好子（北里大学病院）

小島 恭子（北里大学病院）

藤木 くに子（北里大学病院）

田中 彰子（北里大学東病院）

#### 要旨：

術後感染症の予防に適切なケアとチーム医療が展開できるようにアルゴリズムを作成した。術後感染症の諸因子を術前、術中、術後要因に区分して周手術期に必要なケアを構成した。今後、各医療職種と連携して各専門性をアルゴリズムに反映していく必要があると考えられた。

#### A. 目的

術後感染症の予防は、手術を受ける患者において身体的負担の軽減だけでなく、入院期間の短縮、医療費負担の軽減という効果をもたらす。常日頃より看護師は、医師・薬剤師などと連携を駆使して術後感染症の予防的ケアを展開しているが、平均在院日数の短縮、短期で集中的な治療展開などにより看護計画には反映されずルーチンな業務となっている。その中には科学的根拠に乏しい慣習的なケア、科学的根拠は存在するが理解されず実践されているケアが混在している。そこで、術後感染症の予防に適切なケアとチーム医療が展開できるようにアルゴリズムを作成した。

#### B. ケアの適用対象と駆動・終了条件

ケアの適用対象は CDC（米国疾病予防管理センター）の手術部位感染予防のガイドラインなどにに基づき以下の手術以外の全てとしている。適応外手術（侵襲的処置）：熱傷、外傷、移植、小児外科、腹腔鏡的手術、心臓カテーテル、放射線科的処置、内視鏡。

ケアの適用期間は手術決定後に医師や看護師が問診する事から始まり、術後急性期を脱するまでとなる。術後感染症の判断時期は術後 30 日目が望ましいが、術後の入院

期間は短縮傾向であるので退院までに実施することとした。

#### C. ケアの展開

術後感染症の諸因子を術前要因（患者、手術準備・ケア）、術中要因（手術環境、手術手技・ケア）、術後要因（処置・ケア）に区分して必要なケアを抽出した。術前のケアとして、まず術後感染症のリスクアセスメント（喫煙、肥満、遠隔部位感染症、栄養不良、糖尿病）から始まり、除毛、消化管浄化処置、術前シャワー、予防的抗菌薬投与を構成した。術中のケアには、皮膚消毒、体温管理。術後のケアには、術創保護、ドレーン・チューブ管理、血糖管理、呼吸管理を構成した。

#### D. 考察

術後感染症の予防的ケアを術前から術後までアルゴリズムにすることで、各医療職種、各医療チームにおける役割を可視化することができた。このアルゴリズムの全プロセスは看護師のみで担当することができないので、他職種に有効な協力が得られるようにケア内容を表記することが、課題として見出された。今後は、術後感染症の予防的ケアが最大限に効果を発揮するために、協

働する各医療職種と連携してそれぞれの専門性をアルゴリズムに反映していく必要があると考えられた。また、このアルゴリズム

を周手術期看護、栄養管理などのアルゴリズムに関連させることで、ケアの質をより向上させたいと考えている。

## 背景と目的

- 術後感染症の予防は、手術患者に身体的負担の軽減だけでなく、入院期間の短縮、医療費負担の軽減という効果をもたらす。
- 常日頃より看護師は、医師・薬剤師などと連携して術後感染症の予防的ケアを展開しているが、平均在院日数の短縮、短期で集中的な治療展開などにより看護計画には反映されずルーチンな業務となっている。
- その中には科学的根拠に乏しい慣習的なケア、科学的根拠は存在するが理解されず実践されているケアが混在している。
- そこで、術後感染症の予防に適切なケアとチーム医療が展開できるようにアルゴリズムを作成した。

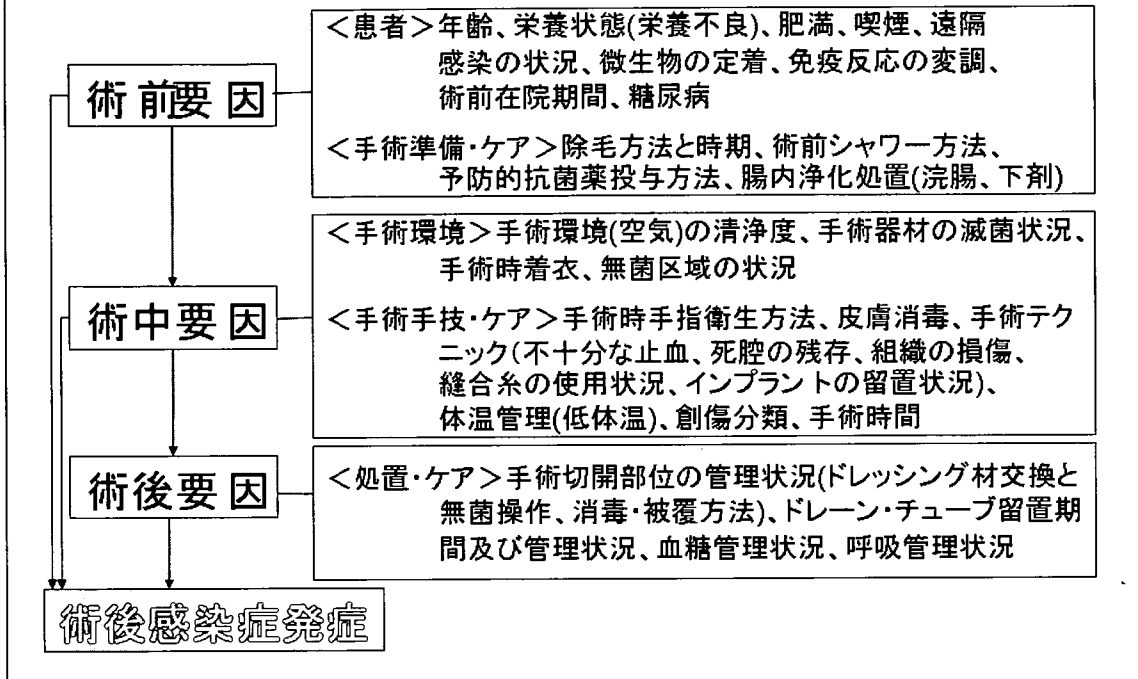
## 外科感染症の分類

炭山嘉伸:周術期感染対策マニュアル, 2006.

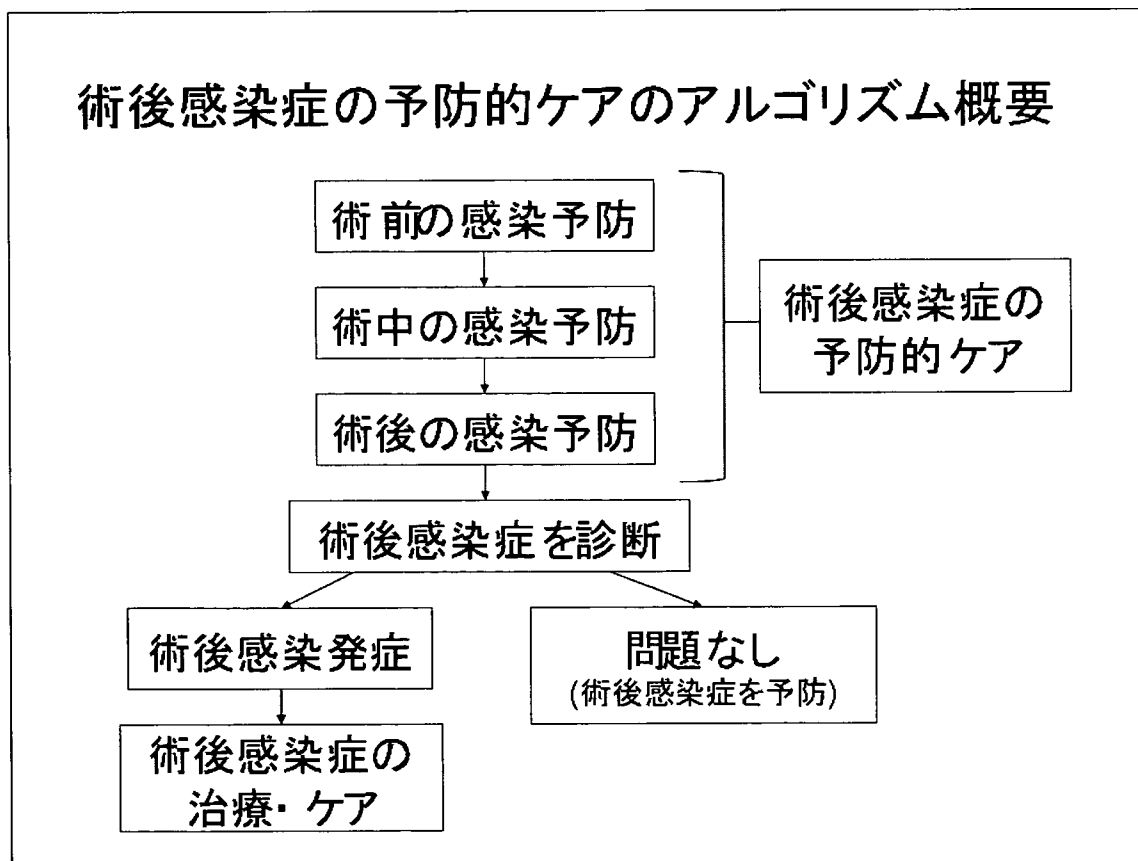
<b>一次感染症</b>		創傷・熱傷感染 皮膚・軟部組織感染 急性虫垂炎・腹膜炎 肝膿瘍 その他
<b>術後感染症</b>	<b>手術部位感染症</b> (Surgical site infection: SSI)	(狭義)創感染 手術対象部位・臓器における感染 (腹腔内膿瘍など)
	<b>遠隔部位感染</b>	呼吸器感染 尿路感染 急性胆嚢炎・胆管炎 腸炎 カテーテル感染

# 術後感染症の諸因子

Mangram, A. et al: Guideline for prevention of surgical site infections (1999)を改変

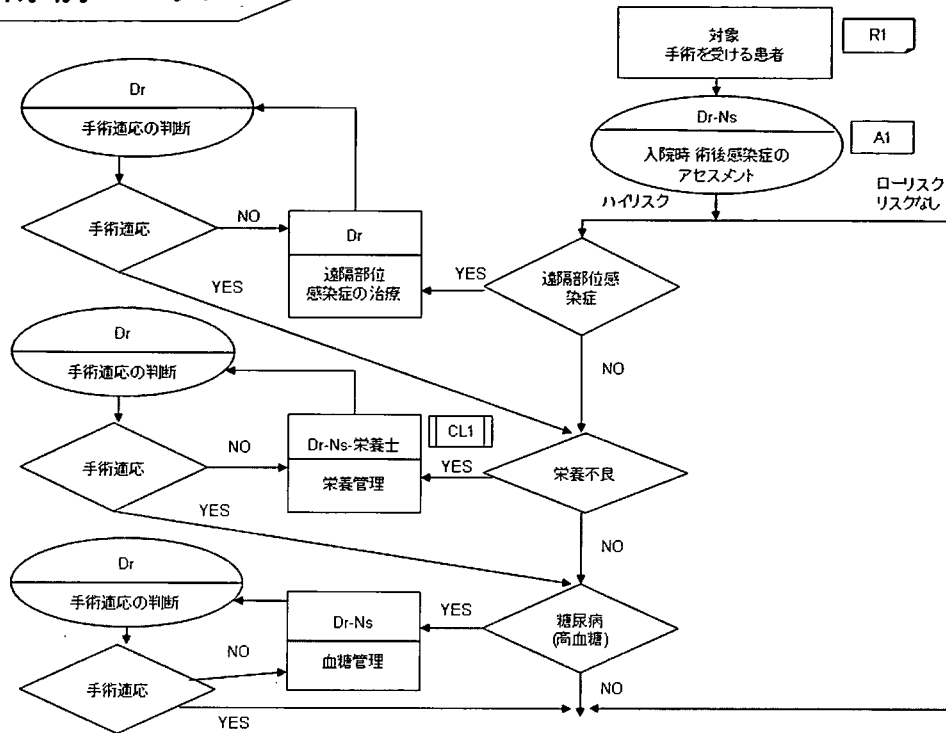


# 術後感染症の予防的ケアのアルゴリズム概要

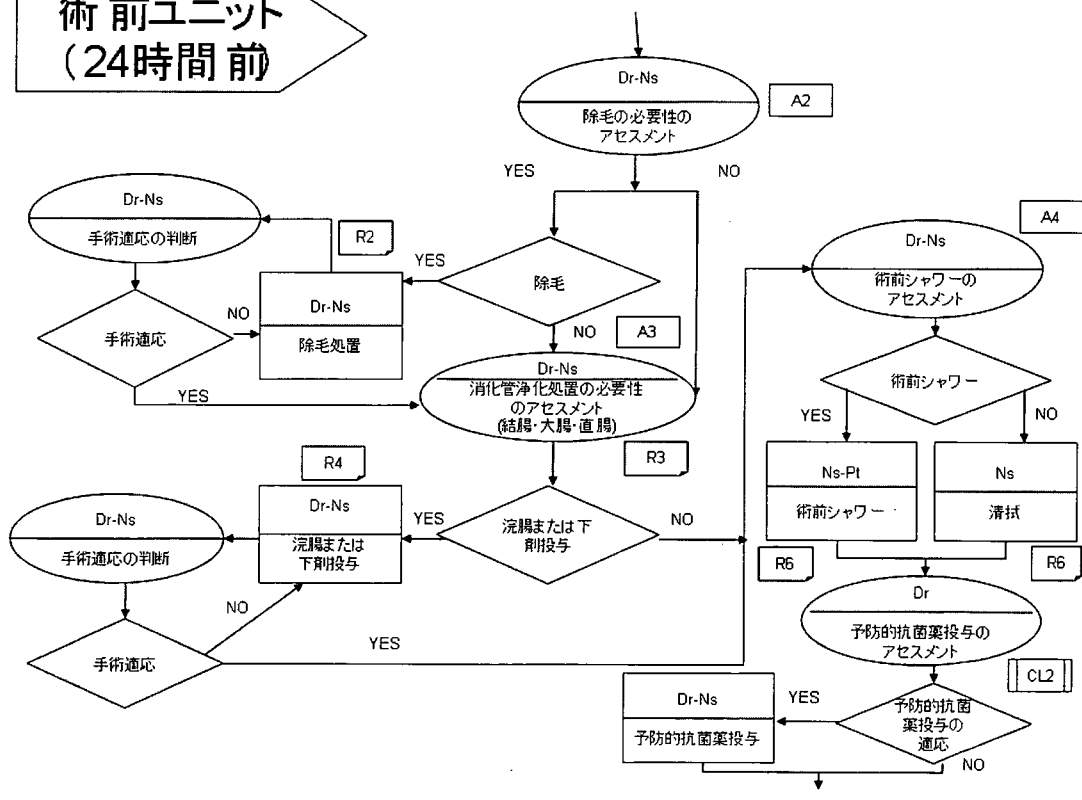


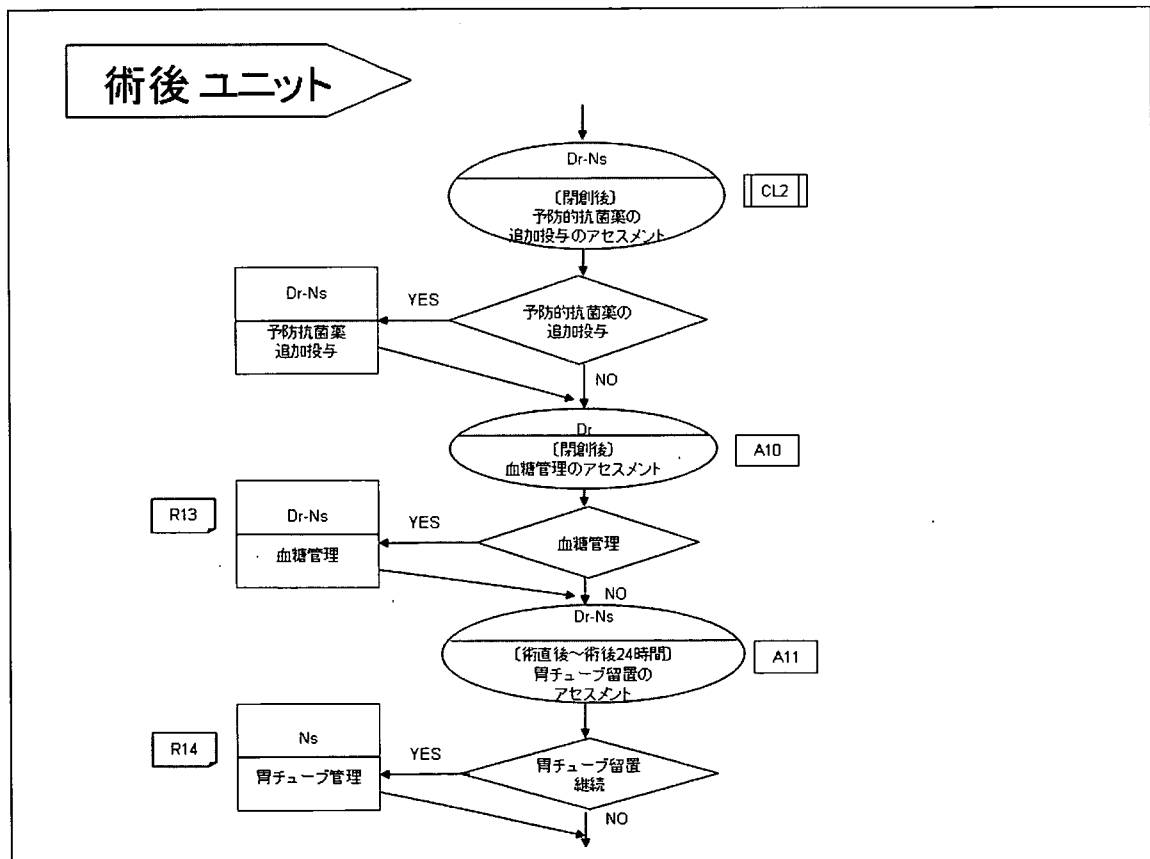
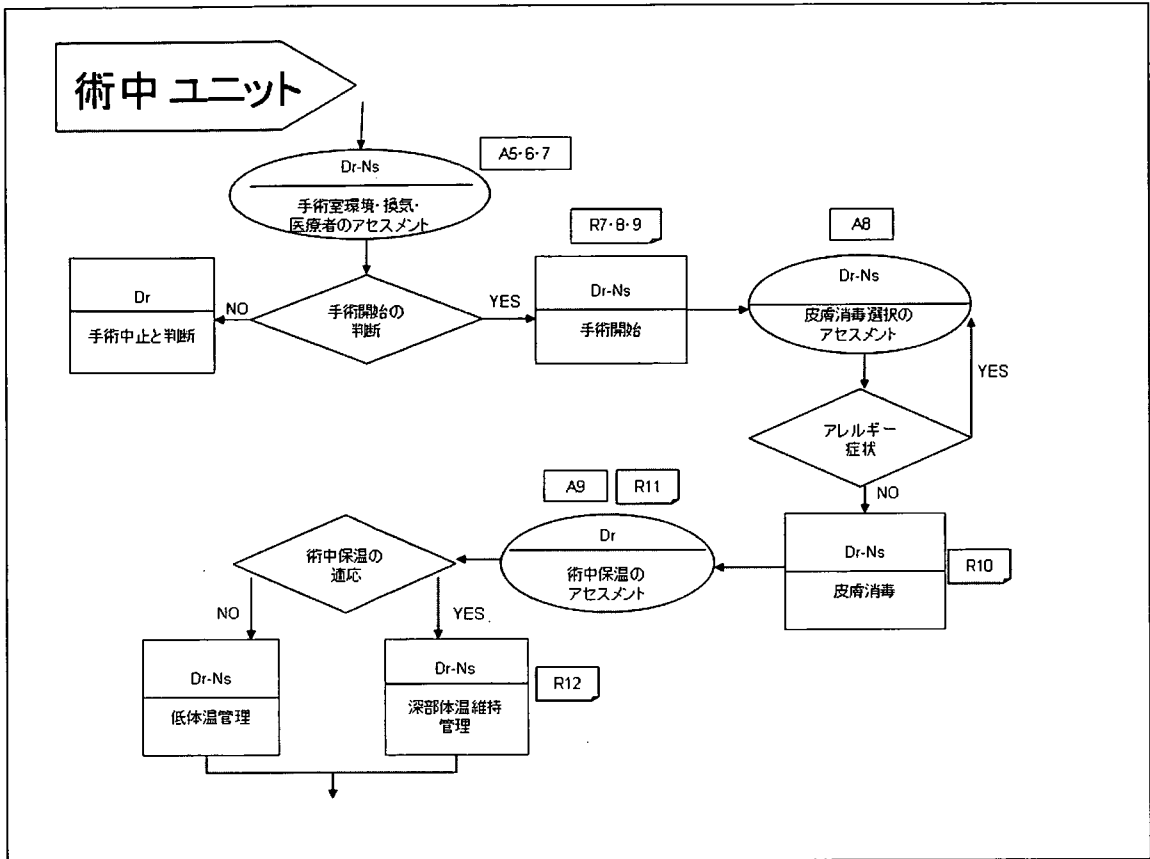


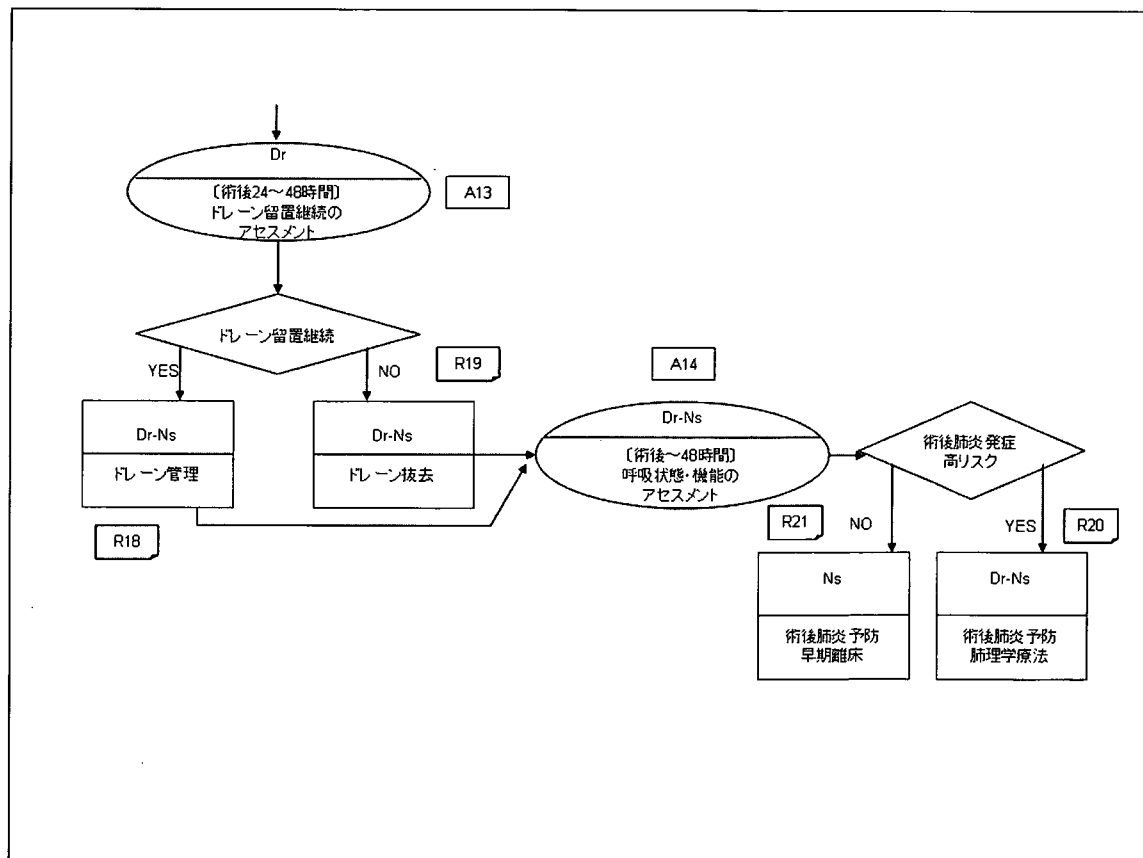
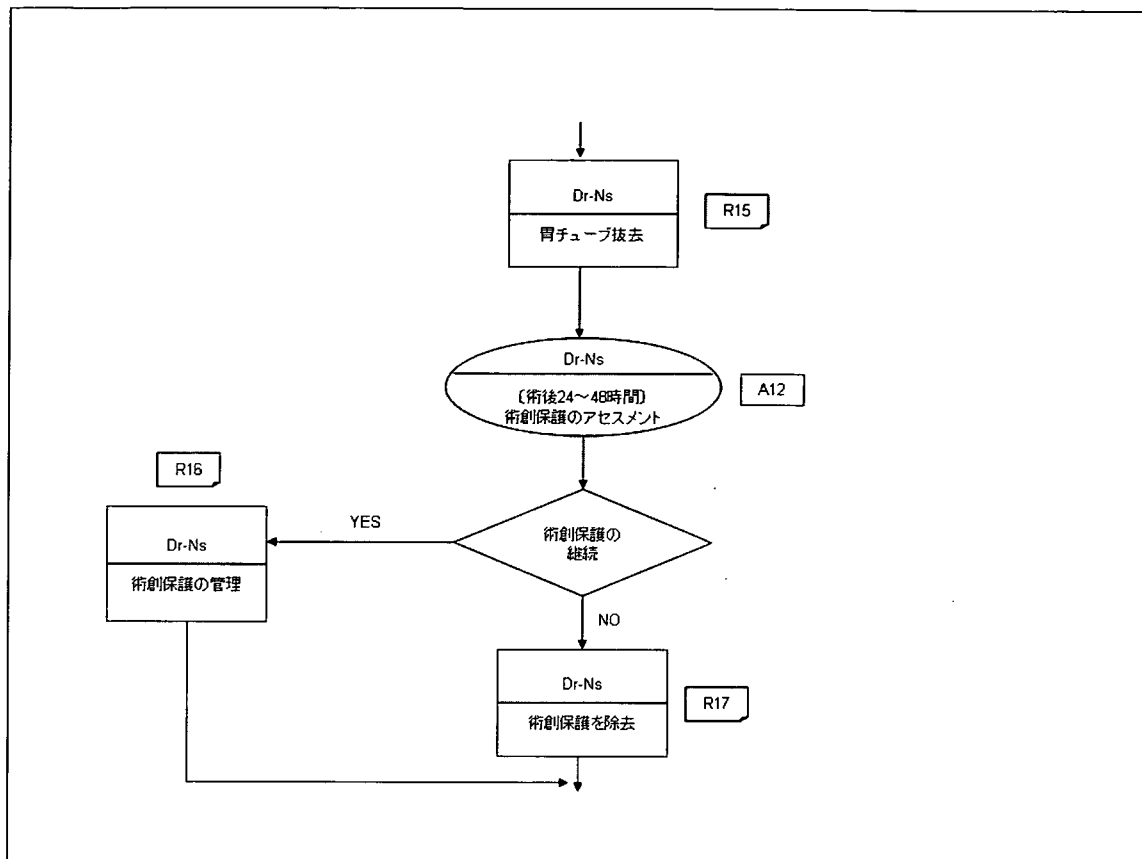
# 術前ユニット



# 術前ユニット (24時間前)







## まとめと課題

- 術後感染症の予防的ケアを術前から術後までアルゴリズムにすることで、各医療職種、各医療チームにおける役割を可視化することができた。
- このアルゴリズムの全プロセスは看護師のみで担当することができないので、他職種に有効な協力が得られるようにケア内容を表記することが、課題として見出された。
- 今後は、術後感染症の予防的ケアが最大限に効果を発揮するために、協働する各医療職種と連携してそれぞれの専門性をアルゴリズムに反映していく必要があると考えられた。
- また、このアルゴリズムを周手術期看護、栄養管理などのアルゴリズムに関連させることで、ケアの質をより向上させたいと考えている。

## 第6章 研究成果一覽

## 研究成果一覧（論文・発表など）

### 【2007年度】

- ・中西 睦子：看護実践の中の知、第27回医療情報学連合大会、神戸、2007/11/24
- ・水流 聡子：看護実践知識の可視化・構造化・標準化～その基盤フレームとコンテンツ～、第27回医療情報学連合大会、神戸、2007/11/24
- ・渡邊 千登世：がん性疼痛マネジメントにおける実践知の構造化、第27回医療情報学連合大会、神戸、2007/11/24
- ・河口 てる子：看護における患者教育の構造化、第27回医療情報学連合大会、神戸、2007/11/24
- ・中西 睦子、水流 聡子、渡邊 千登世、永澤 規子、井上 文江、石井 素子：看護管理者のマネジメント力、看護展望、Vol. 33 no. 1-42、PP. 42-49、2008/1
- ・中西 睦子、水流 聡子、渡邊 千登世、脇坂 浩：高度な看護実践の可視化と質保証、看護展望、Vol. 33 no3-296、PP. 40-49、2008/2
- ・中田 知廣、棟近 雅彦、水流 聡子、長谷川 由美、大和田 美穂、青木 章子、永井 庸次：栄養指導におけるアセスメント項目と記録の標準化に関する研究、第48回日本人間ドック学会学術大会、東京、2007/8/31
- ・中田 知廣、棟近 雅彦、水流 聡子、金子 雅明：栄養指導におけるアセスメント項目と記録の標準化に関する研究、第37回日本品質管理学会年次大会研究発表会、名古屋、2007/10/27
- ・西田 文子、中村 裕美、久保田 由美、助川 智子、橋爪 香代、山崎 寿美礼、佐藤 紀子、中西 睦子、水流 聡子：体位固定の看護実践と思考過程の可視化—腹臥位手術時のケアアルゴリズムの作成、第27回日本看護科学学会学術集会、東京、2007/12/8
- ・藤木くに子、小島恭子、斧口玲子、田中彰子、菊一好子、脇坂浩、水流聡子、中西睦子：高度専門看護実践のアルゴリズムの可視化—外来受診時における結核感染予防ケア、第22回の本環境感染学会総会、横浜、2月23～24日、2007

### 【2006年度】

- ・水流 聡子、石垣 恭子、中西 睦子、柏木 公一、戸塚 規子、福井 トシ子、佐山 静江、木村 チヅ子、菊池 武子、佐藤 エキ子、宇都 由美子：看護の可視化と標準化によるEBNの実現、第26回医療情報学連合大会プログラム・抄録集、p96、2006
- ・水流聡子、中西 睦子、渡邊千登世、佐藤エキ子：インフォメーションエクステンジ7、「高度専門看護実践の質保証—アルゴリズム抽出と可視化—」、第10回日本看護管理学会年次大会、東京、8月25日、2006
- ・山内 一史、太田 勝正、猫田 泰敏、水流 聡子、真嶋 由貴恵、前田 樹海、佐々木 典子：Consumer Health Informatics 教育上の問題点、第26回医療情報学連合大会プログラム・抄録集、p198、2006
- ・佐藤 政枝、川口 孝泰、川村 佐和子、段ノ上 秀雄、水流 聡子：人工股関節全置換術後患者の環境移行をサポートする遠隔看護支援プログラムの提案、第26回医療情報学連合大会プログラム・抄録集、p269、2006

- ・ 石垣 恭子, 高見 美樹, 古屋 肇子, 石橋 信江, 山崎 康祥, 仲村 祐子, 水流 聡子 : EBN と看護情報教育, 第 26 回医療情報学連合大会プログラム・抄録集, p27, 2006
- ・ 石橋 信江, 石垣 恭子, 佐々木 滋人, 原 由行, 水流 聡子 : 標準看護用語のマッチングツールの作成, 第 26 回医療情報学連合大会プログラム・抄録集, pp226-227, 2006
- ・ 成田伸, 岡本美香子, 大原良子, 段ノ上秀雄, 水流聡子 : 助産師による分娩時モニタリングとケアのアルゴリズム表記法を用いた可視化の試み, 第 8 回日本母性看護学会, 福井, 6 月 17~18 日, 2006
- ・ Hiroshi Wakisaka, Akiko Tanaka, Yoshiko Kikuichi, Kyoko Kojima, Kuniko Fujiki, Satoko Tsuru : Structural visualization of expert nursing: care to prevent tuberculosis infection for outpatients at their hospital visits, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- ・ Michiyo Oka, Chizuru Kamiya, Mieko Sagawa, Eiko Yamana, SatokoTsuru : Structural visualization of expert nursing: hemodialysis patient education program behavior modification program for hemodialysis patients, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- ・ Chizuru Kamiya, Michiyo Oka, Eiko Yamana, Mieko Sagawa, SatokoTsuru : Structural visualization of expert nursing: Dialysis patient education program Vascular access management, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- ・ Chizuru Kamiya, Michiyo Oka, Eiko Yamana, Mieko Sagawa, Satoko Tsuru : Structural visualization of expert nursing: Dialysis patient education program PD catheter management, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- ・ Shigeaki Watanuki, Tomiko Takeuchi, Yoshimi Matsuda, Hidemasa Terauchi, Yukiko Takahashi, Mitsuko Goshima, Yutaka Nishimoto, SatokoTsuru : Structural visualization of expert nursing: Development of Assessment and Intervention Algorithm for Delirium Following Abdominal and Thoracic Surgeries, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- ・ Takami Miki, Isigaki Kyoko, Okazaki Michiko, Fukuma Miki, Tsuru Satoko, Hideo Dannoue: Implementation and Evaluation of Standardized Patient Observation Master to the Nursing Directions System in Health Facilities for Recuperation, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- ・ Chitose Watanabe, Makiko Uchiyama, Mikako Takahashi, Ekiko Sato, Satoko Tsuru, Hideo Dannoue: Structural Visualization of Expert Nursing: Cancer Pain Management, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- ・ Megumi Higashi, Teruko Kawaguchi, Etsuko Yokoyama, Miho Ota, Akiko Ito, Michiyo Ryota, Satoko Tsuru : Structural visualization of expert nursing: Diabetes self-management education program, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006

- Chizuko Konya, Hiromi Sanada, Satoko Tsuru : Structured Visualization of Expert Nursing- An educational program for stoma self-care -, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- Atsuko Kitagawa, Hiromi Sanada, Chizuko Konya, Junko Sugama, Mayumi Okuwa, Satoko Tsuru : Structured Visualization of Expert Nursing: Prevention of pressure ulcers, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- Shin Narita, Mutsuko Murakami, Ryoko Ohara, Mikako Okamoto, Yoko Inari, Yukari Kato, Hideo Dannou, Satoko Tsuru : Structural visualization of highly-specialized nursing and midwifery practice: Nurse-Midwife' s Assessment and Care during labor and delivery, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- Seiko Uchino, Manami Inoue, Satoko Tsuru, Mutsuko Nakanishi, Hideo Dannou : To realize easy-to-understand Description of Nursing Practice Terminology for Consumer, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- Manami Inoue, Masako Kuroda, Chie Suekuni, Hideo Dannou, Satoko Tsuru, Mutsuko Nakanishi : Structural Visualization of Expert Nursing: Expert Nursing Care for a Patient undergoing outpatient Radiotherapy, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006
- Manami Inoue, Sumie Mikami, Masami Hanade, Hideo Dannou, Satoko Tsuru : Structural Visualization of Expert Nursing: Expert Nursing Care for Extravasation of Anticancer Agent, Proc. The 9th International Congress on Nursing Informatics, Seoul Korea, 2006

#### 【2005年度】

- 水流聡子 : 高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化, ワークショップ「高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化」, 第9回日本医療情報学会 春季学術大会, 東京、7月13-14日, 2005
- 渡邊千登世、内山真木子 : がん性疼痛マネジメントシステム, ワークショップ「高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化」, 第9回日本医療情報学会 春季学術大会, 東京、7月13-14日, 2005
- 竹内登美子、綿貫成明、松田好美 : 術後せん妄ケアプログラム, ワークショップ「高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化」, 第9回日本医療情報学会 春季学術大会, 東京、7月13-14日, 2005
- 河口てる子、東めぐみ : 糖尿病自己管理教育プログラム, ワークショップ「高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化」, 第9回日本医療情報学会 春季学術大会, 東京、7月13-14日, 2005
- 岡美千代、神谷千鶴 : 透析自己管理教育プログラム, ワークショップ「高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化」, 第9回日本医療情報学会 春季学術大会, 東京、7



月 13-14 日, 2005

- ・ 紺家千津子、真田弘美：ストーマ自己管理教育プログラム，ワークショップ「高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化」，第 9 回日本医療情報学会 春季学術大会，東京、7 月 13-14 日，2005
- ・ 北川敦子、真田弘美：褥そう予防ケアアルゴリズム，ワークショップ「高度専門看護実践におけるアルゴリズムの可視化」，第 9 回日本医療情報学会 春季学術大会，東京、7 月 13-14 日，2005
- ・ 高見美紀、石垣恭子、水流聡子、他：長期療養型病床群における看護観察指示システムへの標準患者観察マスターの実装と評価，医療情報学，24(6)，pp631-637，2005
- ・ 井上真奈美、内野聖子、段ノ上秀雄、水流聡子、石垣恭子、中西睦子、川村佐和子：看護実践行為名称の解説に対する消費者の理解と傾向からみた課題—看護実践行為内容を消費者に提示していくために—，第 9 回日本看護管理学会年次大会講演抄録集，pp132-133，2005
- ・ 水流聡子、中西睦子、川村佐和子、石垣恭子、他：高度専門看護実践のアルゴリズムの可視化，医療情報学，25(Supplement)，pp139-141，2005
- ・ 渡邊千登世、佐藤エキ子、内山真木子、中島佳子、岡田美賀子、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：がん性疼痛マネジメントシステム，医療情報学，25(Supplement)，p142，2005
- ・ 綿貫成明、竹内登美子、松田好美、寺内英真、高橋由起子、五島光子、西本裕、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：術後せん妄ケアプログラム，医療情報学，25(Supplement)，p143，2005
- ・ 東めぐみ、河口てる子、横山悦子、太田美帆、伊藤暁子、両田美智代、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：糖尿病自己管理教育プログラム，医療情報学，25(Supplement)，p144，2005
- ・ 神谷千鶴、岡美智代、山名栄子、佐川美枝子、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：シャント自己管理教育プログラム，医療情報学，25(Supplement)，p145，2005
- ・ 神谷千鶴、岡美智代、山名栄子、佐川美枝子、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：CAPD カテーテル自己管理教育プログラム，医療情報学，25(Supplement)，p146，2005
- ・ 岡美智代、神谷千鶴、山名栄子、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：体重管理の行動変容プログラム，医療情報学，25(Supplement)，p p 147-148，2005
- ・ 北川敦子、真田弘美、須釜敦子、紺家千津子、大桑麻由美、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：褥そう予防・治療プログラム，医療情報学，25(Supplement)，p149，2005
- ・ 紺家千津子、真田弘美、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：ストーマのセルフケア教育プログラム，医療情報学，25(Supplement)，p150，2005
- ・ 脇坂浩、田中彰子、菊一好子、小島恭子、藤木くに子、水流聡子：高度専門看護実践の構造的可視化：結核感染の可能性のある患者への予防的ケア，医療情報学，25(Supplement)，p151，2005

- ・ 水流聡子、中西睦子、川村佐和子、石垣恭子、渡邊千登世、内山真木子、ほか：電子カルテ・電子パスが必要とする看護マスターの開発，第 25 回日本看護科学学会学術集会講演集，p120, 2005
- ・ 水流聡子、中西睦子、川村佐和子、石垣恭子、渡邊千登世、ほか：高度看護実践の可視化・構造化のためのアルゴリズム表記法の開発，第 25 回日本看護科学学会学術集会講演集，p131, 2005
- ・ 井上真奈美、水流聡子、花出正美、金子真理子：がん化学療法における看護実践と看護者の思考過程，第 25 回日本看護科学学会学術集会講演集，p162, 2005
- ・ 水流聡子、中西睦子、川村佐和子、宇都由美子、石垣恭子、井上真奈美：看護行為マスターの開発とその概要，看護管理，Vol.15 No.7, pp540-550, 2005
- ・ 水流聡子、内山真木子、渡邊千登世、段ノ上秀雄：看護観察マスターの開発とその概要，看護管理，Vol.15 No.7, pp551-554, 2005
- ・ 水流聡子、中西睦子、渡邊千登世、内山真木子、佐藤エキ子、川村佐和子：高度専門看護実践のサブシステムライブラリーへの展開，看護管理，Vol.15 No.7, pp555-561, 2005
- ・ 水流聡子，中西睦子，川村佐和子，石垣恭子，宇都由美子，井上真奈美，坂本すが，村上睦子，佐藤エキ子，飯塚悦功，棟近雅彦：高度専門看護実践における知識の可視化研究．看護研究，38（7）：523 - 532，2005．
- ・ 渡邊千登世，水流聡子，中西睦子，内山真木子，佐藤エキ子，段ノ上秀雄：高度実践「がん性疼痛マネジメントプログラムドケア」の解説．看護研究，38（7）：533 - 541，2005．
- ・ 綿貫成明，竹内登美子，松田好美，寺内英真：術後せん妄のアセスメントおよびケアのアルゴリズム（案）開発—腹部・胸部外科における典型的な手術を例として．看護研究，38（7）：543 - 558，2005．
- ・ 岡美智代，神谷千鶴，佐川美枝子，山名栄子：疾病の自己管理支援プログラム—透析自己管理教育プログラムのアルゴリズム．看護研究，38（7）：559 - 577，2005．
- ・ 河口てる子，東めぐみ，横山悦，中西睦子，水流聡子：糖尿病自己管理教育（食事療法）の高度専門看護実践アルゴリズム試案—「認知と行動」に依拠するアルゴリズムは可能か．看護研究，38（7）：579 - 592，2005．

#### 【参考：2005年度以前の関連成果】

- ・ 市川幾恵、水流聡子、山嵜 絆：看護職が持つべき社会経済視点（座談会），インターナショナルナーシングレビュー27(3)別冊，6-13，日本看護協会出版会，東京，2004
- ・ 竹田雄介、沢田秋、水流聡子、萱間真美：記録における看護行為・用語の標準化 - 電子カルテに精神科の特徴を反映させるために - 精神看護 Vol.31 No.6 pp35-40, 2004
- ・ 水流聡子、中西睦子、川村佐和子、石垣恭子、井上真奈美、村上睦子、岡美智代、勝野とわ子、小島恭子、真田弘美、成田伸、川口孝泰、河口てる子、萱間真美、丸光恵、江口隆子、佐藤エキ子、佐藤紀子、山本あい子、村嶋幸代、竹内登美子、嶋森好子：電子カルテのための看護実践用語整備に向けて—プログラムドケアの開発—、第 24 回日本看護科学学会学術集会講演集，2004，p617

- ・ 水流 聡子：「医療 TQM (Total Quality Management) をめざす看護」を支える初期情報システムと必要とする看護マスター. 第 24 回医療情報学連合大会論文集(CD-R), 2004, total 1p
- ・ 渡邊 千登世：がん性疼痛マネジメント (プログラムドケア) の設計開発. 第 24 回医療情報学連合大会論文集(CD-R), 2004, total 1p
- ・ 宇都 由美子:全国標準看護マスタとD P C. 第 24 回医療情報学連合大会論文集(CD-R), 2004, total 1p
- ・ 石垣 恭子、高見 美樹：ベッドサイドケアに情報・知識を活かすナースの育成 (基礎教育). 第 24 回医療情報学連合大会論文集(CD-R), 2004, total 1p
- ・ 佐藤 エキ子：ベッドサイドケアに情報・知識を活かせるナースの育成 (継続教育). 第 24 回医療情報学連合大会論文集(CD-R), 2004, total 1p
- ・ 水流聡子：看護が果たすべきアカウントビリティーと看護サービスの可視化；看護・看護教育分科会 シンポジウム 「今、看護職に求められるもの」. 第 43 回全国自治体病院学会抄録集, 2004, p110
- ・ K.A.McCormick, S.Tsuru, U.Gerdin, P.Weber, A.Casey, E.Hovenga, J.Ho, K.Kerr, R.Carr : An Update on Standards Activities from Around the Globe. Medinfo 2004, San Francisco, Sep 5-12, 2004
- ・ Satoko Tsuru, Mutsuko Nakanishi, Sawako Kawamura, Sigeki Horiuchi, Sachiyo Murashima, Mami Kayama, Kyoko Ishigaki, Miki Takami, Manami Inoue, Yukiko Nagaoka, Kazuko Hondo, Ryoko Hidaka, Atsuko Taguchi:NURSING PRACTICE TERMINOLOGY FRAME FOR ELECTRONIC HEALTH RECORD SYSTEM.Fifth International Nursing Research Conference , Fukushima, Aug 29,2004
- ・ 水流聡子、中西睦子、川村佐和子、石垣恭子、宇都由美子、井上真奈美、溝上五十鈴、才野原照子、内野聖子、日高陵好、本道和子、村嶋幸代：基本看護実践標準用語が看護の質保証に貢献する可能性－電子経過表への実装結果に基づく評価－. 第 8 回日本看護管理学会年次大会講演抄録集, 2004 年, p230
- ・ 水流聡子：電子カルテに必要な看護用語の標準化－高度専門看護実践標準用語の設計－. 第 8 回日本看護管理学会年次大会講演抄録集, 2004, p252
- ・ 津久間秀彦、水流聡子、津久間秀彦、水流聡子、飯塚悦孝、高橋真冬、矢野真、永井庸次：患者参画型チーム医療の設計－“患者本位”と“安全管理”の視点の組み込み－. 医療情報学 Vol.24 No.1 (April2004) pp237-240
- ・ 水流聡子、会田均、高橋宏行、飯塚悦孝：患者状態に起因するアクシデント予測のためのケースアセスメントシートの開発－関連要素の抽出とシートの設計－. 日本品質管理学会第 74 回研究発表会研究発表要旨集, pp101-104, 2004
- ・ 水流聡子、石垣恭子、宇都由美子、高見美樹：臨床で使用されている看護行為名称の分析－看護行為の記録に必要とするマスタファイル－, 医療情報学 23(1) 65-76, 2003
- ・ 水流聡子:看護に求められるインフォームドコンセント. 看護実践の科学 28(1):10-15, 2003

- 水流聡子：EBN に不可欠な看護用語の標準化，EBNursing, 3(4),46-51, 2003
- 水流聡子、中西睦子、川村佐和子、本道和子：病院－在宅継続医療のための看護情報の活用，保健の科学,45(10),729-735,2003
- 水流聡子：電子カルテを視野に入れた看護用語の標準化，看護管理, 13(11), 883-886, 2003
- 水流聡子：提供した看護の妥当性を示せる記録とは，看護展望, 29(2), 12-16, 2003
- 水流聡子：情報開示に耐えられる看護実践用語とその教育．第 23 回医療情報学連合大会論文集 77-78, 2003
- 水流 聡子、宇都由美子、石垣恭子、井上真奈美、高見美紀、柏木聖代、美代 賢吾：電子カルテで使用する看護マスターの標準化の課題－高度専門看護実践の名称とその基準－．第 23 回医療情報学連合大会論文集 140-141, 2003
- 水流聡子、井上真奈美、高見美樹、柏木聖代、石垣恭子、宇都由美子、美代賢吾：中間言語機能を有する ICNP を用いた日本の看護実践の記述．第 23 回医療情報学連合大会論文集 524-525, 2003
- 坂田香代、溝上五十鈴、水流聡子、原田文子、杉村美由紀、才野原照子、津久間秀彦、田中武志、石川澄：標準化した看護ケア用語導入の効果－患者の全体像が見える記録へ－．第 23 回医療情報学連合大会論文集 36-37, 2003
- 北村和美、河村明江、沼田美幸、吉川文花、水流聡子、池本かづみ、田中武志、香西克之、河野香苗、才野原照子、溝上五十鈴、岩田則和、津久間秀彦、石川澄：医療の電子化に対応する可搬型端末用ワゴンの開発－ベットサイドおよびスタッフステーションにおける機能性の追求－．第 23 回医療情報学連合大会論文集 38-40, 2003
- 河村明江、水流聡子、北村和美、吉川文花、新谷公伸、川野知子、田中武志、香西克之、吉野純、中山正俊、才野原照子、溝上五十鈴、津久間秀彦、石川澄：診療看護過程が見える電子経過表の開発－計画・実施・結果・評価のプロセスを全医療スタッフ・患者と共有－．第 23 回医療情報学連合大会論文集 64-65, 2003
- Satoko Tsuru, Isuzu Mizogami, Masae Kawai, Teruko Sainohara, Yumiko Kurihara, Miyuki Sugimura, Nakao Konishi, Hidehiko Tsukuma, Kiyomu Ishikawa: Basic Configuration of Nursing Care Process Support System in Japan. 8th International Congress in Nursing Informatics, Rio de Janeiro, Brazil, June 20 – 25, 2003: E-papers: 681, 2003
- Akie Kawamura, Satoko Tsuru, Fumiko Harada, Humika Kikkawa, Kazumi Kitamura, Isuzu Mizogami, Teruko Sainohara: Construction of information system, aiming at the realization of substantial bedside care. 8th International Congress in Nursing Informatics, Rio de Janeiro, Brazil, June 20 – 25, 2003: E-papers: 644, 2003
- Mutsuko Moriwaki, Mie Masaki, Satoko Tsuru: Analysis of nursing terms related to infection used in Japanese hospitals. 8th International Congress in Nursing Informatics, Rio de Janeiro, Brazil, June 20–25, 2003: E-papers: 679, 2003
- Satoko Tsuru, Mutsuko Nakaishi, Sawako Kawamura, Kazuko Hondo: Practcal Use of Nursing Information for Continuous Medical Treatment between Hospital and